

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成29年11月2日(2017.11.2)

【公開番号】特開2016-65899(P2016-65899A)

【公開日】平成28年4月28日(2016.4.28)

【年通号数】公開・登録公報2016-026

【出願番号】特願2014-193108(P2014-193108)

【国際特許分類】

G 10 L 13/07 (2013.01)

G 10 L 13/06 (2013.01)

【F I】

G 10 L 13/07 C

G 10 L 13/06 230 A

G 10 L 13/06 210 Z

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月21日(2017.9.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

図2において、素片リストアップ部207aは、素片評価部208aに対して、処理対象素片データの韻律データ(以下「素片韻律データ」と記載する)と処理対象セグメントデータの目標韻律データ201との間の韻律コストを算出させ評価させる。具体的には、素片評価部208aは、処理対象セグメントデータの目標韻律データ201と処理対象素片データの素片韻律データとの差に基づいて、韻律コストを算出する。韻律コストは、目標韻律データ201と素片韻律データとの距離を示す。図3に示されるpros_distanceが、韻律コストを示しており、処理対象セグメントデータsegment_kの目標韻律データ201と、処理対象素片データunit_{ll}の素片韻律データとの差に基づいて算出される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

本実施形態によるシステムは、図1および図2の各処理部の機能を搭載した音声合成プログラムを、ROM502からRAM503に読み出してCPU501が実行することで実現される。そのプログラムは、例えば外部記憶装置506や可搬記録媒体510に記録して配布してもよく、或いは通信インターフェース508によりネットワークから取得できるようにしてよい。

【手続補正3】

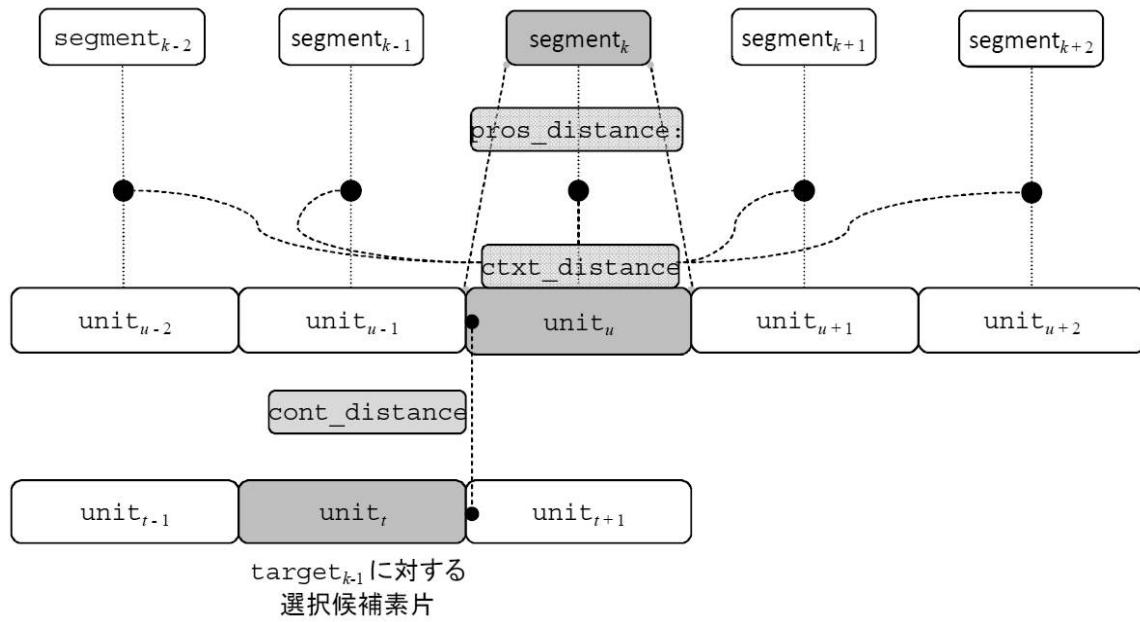
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図3】



【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図15

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図15】

